

リン資源リサイクル推進協議会 平成 27 年度事業計画

リンは、植物や動物の生体を構成する主要な元素であるとともに、生命活動の維持に必要なエネルギーの獲得に関する重要な機能を担っているなど、欠くことのできない必須元素であり、化学肥料、工業製品、食品添加物等に、大量にかつ幅広く利用されている。

一方、原料となるリン鉱石は限られた国に偏在しており、このままリンの需要量が増加傾向で推移すれば、今世紀の後半には経済的に採掘可能なリン鉱石が枯渇するというようなシナリオも発表されている。また、近年の世界的な食料需要の増加やバイオ燃料生産等によるリン酸質肥料の需要増大を一因とするリン鉱石価格の急騰等、国内で消費するリンの全量を海外からの輸入に頼っているわが国においては、資源の安定供給面からも不安材料となっている。

このような状況に対処するため、わが国は国内で使用したリンの回収・再利用や、未利用リン資源の利用技術を開発する必要性に迫られている。

リン資源リサイクル推進協議会は、このような背景のもと、都市下水、含リン廃棄物、製鋼スラグ等の未利用リン資源からのリン回収技術や農業及び工業分野における省リン技術の開発促進、工業用リン酸や黄リン製造技術の革新等の技術の検討を行い、リン資源の回収とリサイクルに関する事業化の促進を行うとともに、リンの回収と再利用を円滑に進めるための事業者間連携や再生リンの利用を促進するための施策の提言等について、産学官の幅広い関係者が一体となって、行政の縦割りや民間企業間の壁を越えたオールジャパンのレベルで戦略的かつ総合的な検討を行い、もってリン資源に関する持続可能な循環型社会の構築と地球環境保全に寄与することを目的として、平成 20 年 12 月 18 日に設立した。

設立後の主な活動としては、回収から利用までのリン資源リサイクル実現に向けた取組を推進するため、多様な回収や利用の技術、国内外の産官学によるリン資源リサイクルの取組等について情報提供・意見交換・課題や方策等の検討を行い、関係事業者間のマッチングや関係省庁・機関との連携強化を図ることを目的としたシンポジウムを毎年 2 回開催するほか、先進的なリン資源リサイクル事例の視察、リン資源のリサイクルに関する活動についてその一層の推進及びそれに従事する者の一層の意欲向上に資するための功績者表彰、海外のリン資源リサイクル関係者との積極的な交流、リン資源リサイクルに関する相談・支援、メール配信やホームページ等による情報の提供と共有、会員活動の後援・協賛等を行ってきた。平成 25 年度には会員区分として新たに特別会員を設け、わが国におけるリン資源の持続的な確保と環境管理に関する国家戦略を立案するための学際・総合的プラットフォームとして平成 23 年度に立ち上げた「リン資源の確保と管理に関する産官学戦略会議」を、特別会員の参画による組織として協議会内に位置付け、想定される危機シナリオに対する問題解決のためのより詳細な調査や、国際的な枠組み作りにも対応したわが国のリン資源戦略の具体的な立案と政策提言に向けた検討を行っている。さらに、平成 26 年度は、海外のリン資源リサイクルの取組が急速に進んでいる状況を鑑みて、海外のリン資源リサイクルに関する有識者や関係機関とより積極的な交流を継続・拡大し、わが国におけるリン資源の確保と管理に関するあり方について社会的認知度を高める活動やアジア等海外に日本の技術や取組を発信する活動を重点的に行なった。

平成 27 年度は、引き続き回収から利用までのリン資源リサイクルの実現化を一層推進するため、例年実施しているシンポジウム、先進事例視察、功績者表彰、国際交流、相談・支援業務、情報の提供と共有の充実、会員の活動に対する後援・協賛等を積極的に行うことに加えて、リン資源リサイクルの社会的認知度を高める活動を重点的に行う。

1. 会務の運営

(1) 総会 (1回開催)

1) 第8回総会

開催日：平成27年7月10日(金)

(第13回シンポジウムと同日開催)

場 所：馬事畜産会館 会議室(東京都中央区)

参集者：関係省庁等来賓、会員、取材、事務局

内 容：平成26年度事業報告及び決算、平成27年度事業計画及び予算、役員の選任、平成27年度リン資源リサイクル推進功績者表彰、その他

(2) 幹事会 (3回開催)

1) 第20回幹事会(平成27年度第1回)

開催日：平成27年5月26日(火)

場 所：日本肥料アンモニア協会 会議室(東京都千代田区)

参集者：役員、オブザーバー(関係省庁)、事務局

内 容：第8回総会議案(平成26年度事業報告及び決算、平成27年度事業計画及び予算、役員の選任、その他)、第13回リン資源リサイクルシンポジウム、事例視察、功績者表彰、第2回持続的リン利用シンポジウム、その他

2) 第21回幹事会(平成27年度第2回)

開催日：平成27年9～10月

場 所：東京都内

参集者：役員、オブザーバー(関係省庁)、事務局

内 容：第2回持続的リン利用シンポジウム、事例視察、平成28年度事業、その他

3) 第22回幹事会(平成27年度第3回)

開催日：平成28年2～3月

場 所：東京都内

参集者：役員、オブザーバー(関係省庁)、事務局

内 容：平成28年度事業計画及び予算、その他

なお、必要に応じて文書審議による幹事会を開催する。

(3) 企画委員会 (3回程度開催)

開催日：幹事会前を基本として必要に応じて開催

場 所：東京都内

参集者：委員、役員、事務局

内 容：協議会の活動計画、内外に対する提言、その他

(4) 監査会

1) 平成26年度事業監査

開催日：平成27年5月14日(木)

場 所：一般社団法人日本有機資源協会 会議室(東京都中央区)

内 容：平成26年度事業監査

2. 事業活動

(1) 技術調査事業

本事業は、リン資源リサイクルに関する技術、関係機関の活動状況、国際的な動向等の情報収集及び関係機関との情報交換等による連携活動により、リン資源リサイクルに関する調査・検討を行うものであり、平成27年度は以下の事業に取り組む。

1) リン資源の確保と管理に関する産官学戦略会議（4回程度開催、場所：東京都内）

わが国におけるリン資源の持続的な確保と環境管理に関する国家戦略を立案するための学際・総合的プラットフォームとして、想定される危機シナリオに対する問題解決のための戦略を明らかにして、国際的な枠組み作りの動向にも対応したわが国の国益に資する政策提言を行う。

平成24年度までは普及啓発事業として、主にリン資源リサイクルの現状や推進に向けた課題等について情報共有と意見交換を行ってきたが、平成25年度からは特別会員の積極的な参画による組織として、より詳細な調査や具体的な戦略立案に向けた活動を行っており、平成27年度も引き続きリン資源リサイクルに関する多様な分野における課題の抽出、情報の共有化、課題解決に向けた議論を行う。

①第15回

開催日：平成27年5月26日（火）

場 所：日本肥料アンモニア協会 会議室（東京都千代田区）

出席者：役員、特別会員、学識者、オブザーバー（関係省庁、関係機関等）、事務局

内 容：中国リン複合肥料工業協会との情報・意見交換、その他

②第16回

開催日：平成27年9～10月（幹事会と同日開催予定）

③第17回

開催日：平成28年1月

④第18回

開催日：平成28年2～3月（幹事会と同日開催予定）

2) 関係機関等との連携

早稲田 大学総合研究機構 リンアトラス研究所、チームとして参画している水の安全保障戦略機構、会員として参画している産業連携ネットワーク、協議会会員団体等の、リン資源リサイクルに関する関係機関等の活動に参加し情報収集を行うとともに、必要に応じて本協議会の活動状況の発信や提言等を行う他、リン資源リサイクルに関する関係省庁の施策や研究機関・関係機関の活動との連携を積極的に行い、情報の共有化や活動の効率化を図る。

①早稲田大学 総合研究機構 リンアトラス研究所

開催日：月2回程度

場 所：早稲田大学先端生命医科学センター(TWIns)2階会議室（東京都新宿区）

出席者：役員、特別会員、学識者、オブザーバー、事務局

内 容：リン資源に関する多様な話題提供と討議、その他

②中国リン複合肥料工業協会

開催日：平成 27 年 5 月 25 日（月）～29 日（金）

場 所：馬事畜産会館 会議室（東京都中央区）、日本肥料アンモニア協会 会議室（東京都千代田区）、日本磷酸株式会社、片倉チッカリン株式会社、岐阜市北部プラント、神戸市東灘処理場、多木化学株式会社

出席者：役員、特別会員、学識者、オブザーバー（関係省庁、関係機関等）、事務局

内 容：中国リン複合肥料工業協会との情報・意見交換、国内におけるリン肥料及びリン資源リサイクルの取組視察、その他

3) 総合技術資料の作成

国内外からのリン資源リサイクル事業に関する種々の問い合わせへの対応、リン資源リサイクル関係事業者のマッチング等に資する、リン資源リサイクルに関する総合技術資料の作成について検討を行う。

(2) 普及啓発事業

本事業は、リン資源リサイクル推進のための情報提供や情報交換等の普及啓発活動を行うものであり、平成 27 年度は以下の事業に取り組む。

1) リン資源リサイクルシンポジウム

①第 13 回

開催日：平成 27 年 7 月 10 日（金）

（第 8 回総会と同日開催）

場 所：東京証券会館ホール（東京都中央区）

参集者：関係省庁等来賓、会員、一般、取材

内 容：リン資源リサイクルに関する国内外の動向、各種技術、事業実施例等に関する学識者や民間企業等からの発表及び報告と意見交換、関係事業者のマッチング

②第 2 回持続的リン利用シンポジウム(早稲田大学 総合研究機構 リンアトラス研究所と共催)

開催日：平成 27 年 11 月 26 日（木）

場 所：早稲田大学 国際会議場 井深大記念ホール（東京都新宿区）

参集者：関係省庁等来賓、会員、一般、取材

内 容：リン資源リサイクルの社会的認知度向上やステークホルダーによる認識の共通化等に資する国内外の動向、各種技術、事業実施例等に関する学識者や民間企業等からの発表及び報告と意見交換

2) リン資源リサイクル事例視察

①第 9 回（海外視察）

開催日：平成 27 年 8 月 29 日（土）～9 月 3 日（木）（予定）

場 所：中華人民共和国 北京市、貴州省、湖北省

参集者：会員、有識者

内 容：中国におけるリン鉱石の採掘状況や黄リン・リン肥料の生産状況等の視察及び関係団体等との意見・情報交換

②第 10 回

開催日：平成 27 年 9～12 月（予定）

場 所：福岡県内（予定）

参集者：会員、関係省庁

内 容：リン資源リサイクルに関する先進的な取組事例等の視察と意見・情報交換

3) リン資源リサイクル推進功績者表彰

リン資源リサイクルについて、その一層の推進及びそれに従事する会員等の一層の意欲向上に資するために、リン資源リサイクルに関して優れた功績をあげた会員等に対する表彰を行う。

<過年度受章者>

平成 22 年度リン資源リサイクル推進功績者：岐阜市上下水道事業部

平成 23 年度リン資源リサイクル推進功績者：秋田県仙北市 仙北市環境保全センター

平成 24 年度リン資源リサイクル推進功績者：福岡市 道路下水道局

平成 25 年度リン資源リサイクル推進功績者：兼定興産株式会社

平成 26 年度リン資源リサイクル推進功績者：日本燐酸株式会社

4) 普及啓発資料の作成

国内におけるリン資源リサイクルに関する社会的認知度を高めることを目的として、幅広い世代や分野を対象とする普及啓発資料の作成について検討を行う。

5) 協議会メールニュースの配信

本協議会活動（会員動向、シンポジウム等の開催案内、事務連絡等）、リン資源リサイクルに係る関係省庁の施策や公募等の情報、関係機関の活動、リン資源リサイクルに関する会員、新聞、情報誌、WEB 等からの情報について、電子メールによる提供と共有を行う。

6) ホームページの運営

協議会事務局である一般社団法人日本有機資源協会ホームページ内の協議会専用ページにおいて、入会案内、協議会案内、会員名簿、行事・イベント等の、本協議会活動の広報を主体としたホームページの運営を行う。

7) その他

報道関係者、一般等からの問い合わせ（協議会の概要や活動、会員等の紹介、入会手続き等）への対応を行う。

(3) 業務支援事業

本事業は、会員等からのリン資源リサイクル推進に関する種々の要請、要望あるいは問合せ等を受けて、その業務を合理的かつ円滑に執行するための支援を行うものであり、平成 27 年度は以下の事業に取り組む。

1) リン資源リサイクルに関する相談・支援

会員等が、リン資源リサイクルの事業化や研究・開発等を推進する際の様々な課題や知見等について、随時、要請や問い合わせを受けて、情報及び資料の提供、面談指導、役職員等の派遣等を行う。

2) リン資源リサイクル推進活動の後援・協賛

会員等が行うリン資源リサイクル推進に関する活動に対して、会員への優遇の有無等その内容に応じて、幹事会による討議を経て、経費や名義による後援、協賛等の支援を行う。

3) その他

関係省庁や連携機関、会員等からの問い合わせへの対応を行う。